

報告第9号

令和3年度やぶパートナーズ株式会社の経営状況について

令和3年度のやぶパートナーズ株式会社の経営状況は、別冊のとおりである。
よって地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項の規定により、報告する。

令和4年9月5日提出

養父市長 広瀬 栄

令和3年度

経営状況報告

やぶパートナーズ株式会社

第9期事業報告書

令和3年4月1日～令和4年3月31日

■事業概要

当社は、創業からの数期間は赤字続きで多額の繰越損失を抱え、債務超過の状態にありましたが前期(第8期)に漸く債務超過の状況から脱しました。

今年度は、繰越損失早期解消を目指し種々の施策を講じましたが、新型コロナウイルスまん延により相次いで緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され予定していたイベント開催が中止となるなど営業活動は大きく阻害されました。

豊中のアンテナショップ「やぶや」の営業日数も半減、度重なる休業で客足も遠のきがちで十分な売上の確保は出来ませんでした。

東京浅草のアンテナショップ「まるごとにつぼん」はビルの3階から1階フロアに売り場が替り、売上の増加が期待されましたが売場形態、販売形態の変更に加え、コロナ禍で浅草界限の人出が大幅に減少したことで見込売り上げの確保は出来ませんでした。

また、養父市内の販売拠点も観光客の入込が大きく落ち込み市内道の駅等の販売も苦戦しました。降雪に恵まれ冬場のスキー客は増加しましたが客層が若く購買には繋がりませんでした。

昨年度から養父市の特産品として販売し好評を得ていた「優香メロン」は完熟を目前にした7月中旬以降の高温で果肉が障害を受け十分な収穫が出来ず「ふるさと納税」の返礼品としての対応にも支障が出るほどでした。

一方で、特産品の朝倉山椒は、昨年度新商品として開発した収穫遅れで種が黒くなり食用として適さない山椒から抽出した「朝倉山椒オイル」は「大人味のシロップ朝倉山椒」に引続き五つ星ひょうごに選定され兵庫県の特産品として全国発信されることとなりました。

さらに、従来、産業廃棄物として畑に廃棄されていた実を取った後の山椒の軸の部分の有効活用策として香り成分を抽出し「朝倉山椒のエッセンシャルオイル」を開発いたしました。

収穫遅れの実山椒に引続き軸を有効活用することで朝倉山椒栽培農家からの買上げ価格の引き上げに繋がり、農家収入増加に寄与できるものと考えております。

コロナ禍による売上の落込みを挽回すべく兵庫県内オールトヨタグループとの取引活発化の一環としてトヨタ販売店店舗を無償でお借りし、「やぶや」出張販売を開始いたしました。

その結果、売上高は52,986千円、対前期△7,043千円、経常利益は5,274千円、対前期△3,270千円と減収減益決算となりましたが、繰越損失は10,397千円に減少し、資本勘定は純資産9,602千円となりました。

6次産業化支援センター指定管理部門では、空室となっていた2部屋を1社に契約いただき全室契約済みとなりました。また、今年度も引続き「特産品開発セミナー」を開催いたしました。

また、コロナ禍による消費者行動の変化に対応すべく通販業務拡充を目指し、令和4年3月ホームページを開設いたしました。

さらに、外部コンサルタントによる企業診断を実施、当社の課題・問題点の抽出と目指すべき方向性を確立し、令和8年3月期を終期とする中期3か年計画を策定いたしました。

新型コロナウイルス感染症も漸く落ち着きを見せつつあり、営業活動を活発化し、市内事業者・農家支援に全力を傾注できる環境が整ってまいりました。

引続き、行政当局をはじめ関係機関並びに株主のご指導、ご鞭撻を切に要望し第9期の事業報告といたします。

株主及び出資金

(1) 株式の総数

・会社が発行する株式の総数	400株
・発行済株式の総数	400株

(2) 株主の内訳

(単位:千円)

	第8期		増減		本年度末現在	
	人員	出資金	人員	出資金	人員	出資金
400株	1	20,000	0	0	1	20,000
合計	1	20,000	0	0	1	20,000

(3) 株主名簿 (出資者)

氏名又は名称	住所	持株数または出資額
養父市	兵庫県養父市八鹿町八鹿1675	400株

従業員数 (令和4年3月31日現在)

(単位:人)

		社員数
正規職員		4
	うち市内	4
	うち市外	0
パート職員		3
	うち市内	2
	うち市外	1

決 算 報 告 書

(第 9 期)

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月31日

やぶパートナーズ 株式会社

兵庫県養父市八鹿町八鹿1685-2

電話：079 - 661 - 9001

貸借対照表

令和4年3月31日 現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	【15,960,622】	【流動負債】	【6,794,252】
現金及び預金	10,178,252	買掛金	193,646
売掛金	414,985	未払金	2,325,238
商品	1,367,528	未払法人税等	185,000
立替金	12,600	前受金	45,000
未収入金	3,987,257	預り金	2,731,668
		未払消費税等	1,313,700
【固定資産】	【435,899】		
[有形固定資産]	[164,909]		
建物附属設備	145,120		
車両運搬具	1	負債合計	
工具器具備品	19,788	純資産の部	
[無形固定資産]	[0]	【株主資本】	【9,602,269】
ソフトウェア	0	[資本金]	[20,000,000]
[投資その他の資産]	[270,990]	[利益剰余金]	[△10,397,731]
出資金	230,000	(その他利益剰余金)	△ 10,397,731
敷金	40,000	繰越利益剰余金	△ 10,397,731
預託金	990	純資産合計	9,602,269
資産合計	16,396,521	負債・純資産合計	16,396,521

損益計算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

(単位：円)

科 目	金 額	
I 純売上高		
1 売上高	49,250,674	
2 その他営業収入	3,735,751	52,986,425
II 売上原価		
1 期首商品棚卸高	1,986,509	
2 仕入高	8,238,608	
3 仕入割戻高	0	
4 他勘定振替	0	
合 計	10,225,117	
5 期末棚卸高	△ 1,367,528	8,857,589
売上総利益		44,128,836
III 販売費及び一般管理費	39,166,222	
1 販売費及び一般管理費合計	39,166,222	
営業損益		4,962,614
IV 営業外収益		
1 受取利息	117	
2 受取配当金	1,200	
3 雑収入	310,543	311,860
経常利益		5,274,474
V 特別利益		
1 固定資産売却益	154,545	154,545
税引前当期純利益		5,429,019
法人税、住民税及び事業税		185,261
当期純利益		5,243,758